

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100774		
法人名	社会福祉法人 墨友会		
事業所名	グループホーム サンヴェール大垣		
所在地	岐阜県 大垣市 東町4丁目43-2		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100774&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人といよの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あらゆる面で特養との併設施設である強みを十分に活かせるようにケアサービスの提供を図っており、家族的な雰囲気作りに努めて、ご利用者・ご家族・スタッフが共に無理のない自然で当たり前な日常生活を過ごせるようにしています。今年度は近隣の6つのグループホーム・事業所と複数事業所連携事業(県補助事業)を提携することによって、合同研修や人材雇用などを地域に根ざして活動できるよう開始しています。特に隣接した2つのグループホームとはそれぞれの家族会、イベント、交流会などをできる範囲で合同開催し、連携強化をおこないながら情報共有し、ご家族・ご利用者の相互交流を深め、孤立化しない施設とするよう努力しています。スタッフはご利用者と触れ合う時間を大切にして、ありのままを受け入れながら笑顔で過ごせるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養の2階に併設したホームの玄関は、ショートステイ利用者の顔やホーム利用者の顔が双方で見え、開放感がある。また、ホーム独自に毎月避難訓練を実施し、避難経路を身体で記憶してリハビリにもつなげている。施設の喫茶室は、地域住民・ボランティア・家族・利用者・職員等誰でも自由に利用でき、井戸端会議の場・語らいの場・交流の場・情報発信の場となっている。県の複数事業所連携補助事業で地域の6事業所が協力し、職員交流を実施したり、口腔ケア・ターミナルケア等について広く地域住民を巻き込んで研修会を開催している。また、近くの小学校で正しい認知症の理解についての学習会を行い、地域への啓発活動を進めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、スローガンは各自が名札の中に入れて常に確認できるようにしている。また日々のケアの中で、理念をもとに具体的なケアについてどんな事ができるのかを話し合い、実践につなげている。	法人の理念に従い、利用者のペースに合わせゆったり支援している。前回の改善目標である地域密着型サービスに添った独自の理念については、職員間で納得できるものを作りたいとの思いが強く、話し合いを続けている最中である。	幹部・職員総てが納得できる理念を、早急に作り上げることを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、活動等の情報を集め、それらに参加したり、散歩や買物等に出かけ、地域の方たちと挨拶を交わしたり、関わりを持つ努力を行っている。	母体施設玄関に喫茶室を設け、情報・交流の発信源としている。地域住民や利用者・家族・職員等日常的に利用している。小学校のほたる祭りに参加したり、高学年の福祉委員の体験学習や保育園児が訪れたりして、双方向の交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設の強みとして、他事業所との連携に努力している。また、1階のサンカフェで地域の方々との自然な交流を促し、直接・間接的な支援・実践を試みている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者状況、行事等、取り組んでいる内容について報告し、各委員会から助言、提案を得ている。また、それを現場に生かす努力を行っている。	定期的に地域の同業者や関係者で開催している。交流室やホームの居間で利用者も参加しながら、現状報告や情報提供を行っている。しかし、地域関係者の参加が固定したり、意見交換が希薄である。	喫茶室や行事では交流をしているが、さらに、事業所が地域で果たす役割を見つけるために、運営推進会議への地域住民の幅広い参加を働きかけて欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期報告に加え、行事案内の通知を通して連絡、意見交換ができるようにしている。管理者自らが市に出向いて行き、市町村との関係を良好に保つように努めている。	定期的に担当者で話し合う機会を作っている。今年度は県の複数事業所連携事業の補助金事業を6事業所で申請し、研修会の開催等を行政担当者にも報告し協力体制を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがある。施設内研修や安全対策委員会から、身体拘束の理解、知識習得に取り組んでいる。	身体拘束の弊害については職員も十分承知しているが、更に定期的に安全対策委員会を開催し、お互いのケアサービスを振り返り学習している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがある。ミニ研修を行い、具体的にどんな行為が虐待につながるのか等、知識習得に努めている。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでに成年後見制度が必要なケースは無かったが、制度の周知を資料配布、掲示等で行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、丁寧に納得頂けるまで説明を行っている。 契約時には、事業所の運営理念やユニットの様子、対応可能な範囲について説明と見学を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の言葉や行動からその思い、考えを察知し、利用者本意のケアを心がけている。また、家族には何でも言って頂ける雰囲気作りに努め、近況報告とともに要望、意見を伺いユニット会議等で話し合いケア及び運営に反映させている。	行事等を写真で報告し、訪問時には意見を求め、利用者や家族と話し合える雰囲気を作る工夫をしている。些細なことや言葉も運営に反映させるよう職員は努力している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や日々の勤務の中で意見を聞いている。また、日頃から管理者はコミュニケーションを図るよう心がけ、意見の言い易い環境作りに努めている。	管理者は、職員が楽しく働ける環境作りと得意分野を發揮できるように努めている。また、日頃からコミュニケーションを図り、職員から気軽に要望や提案などを聞いている。設備面の要望等は早期に解決を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意分野(料理、お菓子作り、手芸、工作、パソコン等)を生かし、利用者と一緒に楽しみながら行えるようスタッフのペースに任せ、勤務時間の調整を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の施設内研修、月1回のユニット会議内での研修、遅番ミーティング内研修を行っている。 また、各スタッフ年1回の外部研修への積極的な参加を課すよう努力している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム2件と、利用者を変え行き来している。グループホームケアマネージャー情報交換会への参加を通じた交流、連携を図っている。今年度、5箇所のGHと事業所連携事業を開始した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し、まずは本人と信頼関係が築けるよう本人の思い・不安を受け止め、その思い・不安をスタッフ全員で共有し、ご利用者に安心して頂けるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯、家族の苦労、困っている事をゆっくり聞き、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合い、その情報をスタッフ全員で共有している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、困っている事、不安な事に対してできる事はすぐに実践し、困難な問題にも施設の相談員、看護師と連携を図り対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、利用者と暮らす家族として共に支えあえる関係作りに努めている。日々の生活から知恵や技を教えて頂く場面が多く、お互いに感謝する関係が築けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の際に、日々の様子や気づいた事を報告し、またご家族の思いも聴き、本人と一緒に支える為、同じ思いで支援できるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の人間関係、地域との関係について把握し、交流を続けられるよう支援している。お墓参り、自宅、地元への外出訓練を行っている。また、ご友人が面会に来られている。	近所の友人の面会は多い。また、職員と一緒に墓参りに行ったり、家族と連絡を取り自宅や地元へ出かけたりして、今までの関係が続くよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、関係を理解し、スタッフ間でも情報を共有している。その日の状態や気分を注意深く観察し、スタッフが間に入りながら利用者同士が仲間として生活していけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方が遊びに来られたり、反対に遊びに行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は積極的に利用者とのコミュニケーションをとり、意向の把握に努めている。また生活歴や家族からの情報も考慮しながら、ユニット会議で話し合い、検討している。	ゆっくり職員と話し合える場面作りを工夫し、ベランダで、居室で、外出時に思いを尋ねている。カラオケに行きたい、また、自分の病気のことを知りたいという思いを職員だけでなく医療従事者とも連携をとって、分かりやすく説明している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントに留まらず、利用者とのコミュニケーション、家族カンファレンスや面会時での自然な会話の中から、一人ひとりの生活歴やこれまでの経過などを把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申送り、記録等から情報共有をしっかりと行い、一人ひとりの一日の暮らしの流れ、心身状態の把握に努めている。またセンター方式の「暮らしの情報シート」を活用し、その人らしく安心して過ごして頂けるケアを検討している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向をもとにアセスメントし、会議での話し合いで職員の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。また利用者の状況変化などを毎月評価表に記録し、それをもとにプランの見直しを行っている。	利用者の担当職員が、本人、家族の意向を聞きケアマネジャーと共に作成し、会議で検討している。また、状況変化が記録された「評価表」をもとに、毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録ファイルに毎日の様子や本人のありのままの言葉、ケアの実践・結果、気づきなどを随時記入し職員全員が目を通すことで、利用者の状態を継続的に把握できるようにしている。この記録をもとにケアの見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望で、家族に代わり受診や墓参り、自宅への送迎など柔軟な支援を行っている。又ホーム内で解決できない問題については、併設施設内で相談・話し合いを行いホーム内の枠をこえた支援ができる様に努めている。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月折り紙ボランティアがみえたり、近隣の幼稚園・小学校の子供達と交流を図るなど地域とのつながりを大切にしている。また運営推進会議では地域包括センター職員・自治会長も交えて、活動報告・意見交換を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外のかかりつけ医受診は、本人の健康状態をお伝えした上で家族同行での支援としている。受診結果は、看護師が家族から報告を聞き、職員へ申し送りを行い、連携している。	本人・家族の希望に合わせ、従来のかかりつけ医を家族同行で受診している。日常の健康状態は、口頭や書面・FAXで報告し連携を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や気づきは、常駐している併設施設看護師にすぐに相談し連携を取りながら、利用者の健康管理を行っている。夜間も連絡体制ができており、迅速に看護や受診を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院見舞いなどの本人の支援に加え、本人家族との話し合い・病院との連携を図りながら、本人に負担がかからない様に、より効果的な治療を行い、早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	また利用者・家族・医師・看護師・相談員・リーダーが話し合い、現状でどこまでの支援ができるのか見極めを行いながら方針を共有している。職員はターミナル研修を受けているが、本人の苦痛や希望、ケアの限界などを考慮しながら病院や併設施設での支援に切り替えている。	契約時に終末期のあり方について本人・家族と確認し、書類を作成している。状態の変化に合わせて家族を中心に関係者と話し合い、方針を共有している。母体施設看護師と連携し本人・家族の希望に合わせ、家族と一緒に看取りをした経緯がある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを作成し、全職員に周知徹底することで迅速な行動がとれるように努めている。また職員は看護師や外部の講師から器具の使い方や応急手当の訓練を受け、技術習得を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導下で夜間想定を含んだ年2回以上の避難訓練を行う。災害発生に備えた食料・飲料水などを備蓄。グループホーム単独で毎月避難訓練を実施し、利用者とともに避難経路・器具の確認・消火器訓練を行っている。	日常的に避難経路を体で覚えて欲しい思いから、ホーム独自で毎月避難訓練を利用者を交えて行っている。法人施設と一緒に対策や訓練を定期的実施しているが、地域住民との協力体制を築く努力が希薄である。	運営推進会議などで災害時対策を話し合い、地域住民の理解、協力を呼びかけて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳・誇りを大切にすることが言葉がけや対応を行っている。またプライバシーについては、毎月のユニット会議で検討されている。排泄の確認や失禁時には他利用者に気づかれないよう配慮しながら行っている。	常に笑顔で、その人らしさを尊重し、ゆったりと当たり前の対応を心がけている。トイレや居室での排泄介助時は、カーテン、ドアをしっかり閉め、羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者一人ひとりと寄り添う時間を多く持ち、本人の思いや関心事を引き出せるように努めている。又食事メニューの選択や喫茶店での注文、買物、着る服などできる限り、利用者が自己決定できるよう促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調や表情・しぐさをみながら、希望を聞いたりお誘いするなど、自分のペースで無理なく思い通りに過ごせるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの鏡台や化粧品を部屋に置き、思い通りの整容ができることが生活の張りになっている。また施設内での理美容院は人気で、事前要望を確認して利用して頂いている。希望により、馴染みの美容院へ行くことも可能である。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設で調理・配食されるが、ご飯や朝食の味噌汁はユニットで調理している。時には施設で採れた野菜で利用者と一緒に調理、食事会をしたり、おやつを手作りしたり、花見で弁当を食べたりと食事を楽しむ支援を行っている。	利用者に適した量と形態の食事を、職員も一緒に食べながら介助している。地域住民が収穫した野菜や果実と一緒に調理し、おやつを作り、食事会では常にはない笑顔の場面を作っている。食後のひとは昔話をして楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態や変化の把握に努めている。また施設の看護師や管理栄養士の助言を貰いながら、必要に応じて食事・水分量の調整、自助具の利用、介助方法の工夫などを行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況・ケア能力・習慣に合わせて見守り介助を行っている。就寝前の入れ歯の消毒も実施、管理の難しい利用者には、納得頂いた上で夜間のみ管理している。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握、パターンや兆候に合わせてトイレ誘導を行っている。立ち上がり・歩行困難な利用者でも残存機能を生かしながら、時には2人介助で出来る限り排泄できるよう支援している。	自立度に合わせ、排泄チェック表を参考に声かけや見守りで対応している。ポータブルトイレは、夜間のみ使用するよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設周辺の散歩やリハビリ体操への参加、畳の上でのゴロゴロ体操をレクで行い体を動かす機会を作っている。また便秘傾向のある利用者には、バナナ・ヨーグルト・牛乳を朝食やおやつに多く取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には火・木・土週3回昼間の入浴だが、体調・希望に合わせて他の時間・曜日でも入浴可能である。季節に合わせて菖蒲湯・柚子湯にしたり好きな音楽をかけるなど、利用者に合わせてゆったりと入浴を楽しめる工夫をしている。	個浴2台を交互に使用し、利用者ごとに湯を入れ替え、湯温・入浴剤・音楽でゆったり楽しんでいる。外出後にシャワーを使用する等、要望・体調に合わせ臨機応変に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ちょっとひと休みできるようリビングにソファを置き思い思いに過ごしている。夜間眠れない利用者には無理強いをせず、テレビ・CDをかけたり、話し相手、環境整備を行うなど、その人のペースで入眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作成し、全職員がいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また毎日の心身の状況変化を観察・記録し、看護師・家族と連携をとりながら服薬支援に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仏壇でお経をあげる方、新聞・雑誌をじっくり読まれる方、職員と一緒に洗濯たたみ・新聞折りの手伝いをして下さる方、金魚にエサをあげる方など利用者一人ひとりが楽しみや役割を持てるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、利用者と職員が1対1で外出できる機会を多く設けている。近所のスーパーやコンビニ、薬局へ買い物に出かけたり、自宅・神社・お墓・花見・飲食店・近隣のグループホームなど、一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。	希望を聞きながら飲食店、カラオケ店等にも出かけ、一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。外出をリハビリと捉え、外気に触れる努力をしている。地域住民・店員さん等人と触れあい、語らう機会を1対1でこまめに作っている。	

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、自己管理が可能な方には財布を手元に持って頂いている。又利用者の希望や力に応じて、買物の時は本人がお金を所持し支払う機会を持てる様に支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援している。又写経を書いたり、毎日の日付け書きなど読み書きの支援も力に応じて個別に行っている。年末には写真入りの年賀状を書いて送り、家族や大切な人との触れ合いを大事にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に利用者と職員が共同制作した作品や生け花を飾り、ベランダには野菜・花のプランターを置くなど、生活感・季節感のある空間作りに努めている。また玄関にポストや下駄箱を、居間には仏壇やソファなどを置き、家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	玄関はオープンで併設施設へ自由に行き来できる。共用空間は、車椅子で思い思いに動ける広さがある。職員は得意分野を活かし、利用者と月々の飾り等を作成し、季節感を出している。仏壇に佛飯や金魚の世話も職員が利用者に声かけをして、一緒に行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人や数人で気兼ねなく過ごせるようテーブルの位置やイスの間隔に配慮したり、壁沿いや窓際にソファを配置し、思い思いの場所でゆったりと居心地よく過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ・冷蔵庫・鏡台・アルバム・大正琴・仏壇など、これまで使ってきた馴染みの物を置いている。転倒など安全面にも配慮しながら設置し、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	畳・ベッドと好みに合わせ、居室の洗面台に化粧品を並べ、新聞書籍も手の届く位置に置いてある。孫やひ孫の写真を貼り落ち着いて過ごせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移乗できる様ベッド柵に鈴をつけ見守りをしたり、注意を促す手紙を貼ったり、ベッド横にマットを敷き低床にして転倒事故を防ぐなど、ハード面だけに頼らず安全を心がけた環境整備・自立支援を行っている。		